

GALILEI

FUKUSHIMA GALILEI CO. LTD.

フクシマガリレイ株式会社
統合報告書 2021

GALILEI
Be cool, Be alive.

フクシマガリレイ株式会社

FUKUSHIMA GALILEI CO. LTD.

〒555-0011 大阪府大阪市西淀川区竹島2-6-18
Tel. 06-6477-2011 / Fax. 06-6477-0755
www.galilei.co.jp

(2021-11)D



CONTENTS

- 03-04 トップメッセージ
- 05-06 福島工業からフクシマガリレイへの歴史
- 07-08 創業70周年を迎えて
- 09-12 サステナブルビジョン
- 13-14 グループシナジー
- 15-16 価値創造モデル

事業別紹介

- 17-18 事業内容・Synergy Solution
- 19 冷凍冷蔵事業
- 20 ショーケース事業
- 21 FMS事業
- 22 サービス事業
- 23 エンジニアリング事業
- 24 ガリレイパネルクリエイト株式会社
- 25 タカハシガリレイ株式会社
- 26 ショウケンガリレイ株式会社
- 27 海外事業
- 28 事業別の売上高推移

ESGの取り組み

- 29-30 環境方針
- 31-32 環境実績
- 33-34 社会貢献
- 35-36 人材の確保・育成
- 37-38 コーポレート・ガバナンス
- 39 MILAB〔ミラボ〕
- 40 財務ハイライト
- 41 会社概要・株式情報
- 42 役員・事業所・グループ会社一覧

環境・安全・安心をテーマに「幸せ創造企業」を目指します

ガリレイグループの企業理念は、「幸せ四則」に掲げる生活者・お客様・社員・株主・お取引先の幸せを実現するため、「食」を通じて社会に貢献し続けることです。コールドチェーンにおいてグループ企業各社の技術と経験を生かし、生活者が「生きるための基本」である「食」の安全・安心を守ります。“from Farm to Table”のすべてに「冷やす技術」で応え、食生活の品質向上を縁の下から支え、豊かで幸せな未来づくりに貢献します。

また、地球環境保護への取り組みとして、製品と商業店舗の省エネ化の追求、企業活動全般におけるCO₂の削減、高度な冷凍・解凍技術によるフードロスの減少、冷媒ガス問題の解決に最大限努力します。さらにはSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みもグループ全体で力強く推し進め、世界の発展・平和に寄与できる企業を目指します。



ガリレイグループの企業理念

第1項	生活者の幸せ	わたしたちは、環境・安全・安心をテーマにお客様と協働し、生活者の「幸せ」に寄与することを基本使命とします。
第2項	お客様の幸せ	わたしたちは、独自の技術とシステムにより、フードビジネスに新しい価値を創造し、お客様の「幸せ」に貢献することを基本使命とします。
第3項	社員の幸せ	わたしたちは、自己責任能力を高め、自身と社業の成長を通じて、物心両面の「幸せ」を追求することを基本使命とします。
第4項	株主・お取引先の幸せ	わたしたちは、将来への目標を共有し、常に業績向上に努め株主やお取引先に「幸せ」を提供することを基本使命とします。

企業行動憲章

- ・ 食の安全・安心
- ・ お客様満足への追求
- ・ 環境保護
- ・ 社会貢献
- ・ グローバル
- ・ 法令遵守
- ・ 公平・公正な取引
- ・ 従業員の尊重
- ・ 情報開示
- ・ 情報管理
- ・ 反社会的勢力への姿勢

社員行動指針

- ・ 食の安全・安心
- ・ 顧客志向・顧客重視
- ・ チームワーク
- ・ 独創性・先見性
- ・ 教育
- ・ ルール厳守
- いつでもどこでも食の安全・安心を
- お客様にとっぷり浸かる
- チームGALILEIで限界に挑戦
- 未来に向かって大胆に挑戦
- 人を育てて、自分も磨く
- 当たり前を、当たり前

Be cool, Be alive.

トップメッセージ

変化する食業界の“今”と 30年後の創業100周年を見据え お客様、社会にとって 唯一無二の存在へ

代表取締役社長 福島 裕

変わりゆくニーズに柔軟に応え お客様と共に食の未来を拓く

前年は、コロナ禍において内食化が一気に加速しました。それに伴い、スーパーマーケットをはじめとする内食を提供する業界は、非常に需要が高まりました。当初は、あまりの急展開に内食産業も外食産業も混乱していたように感じますが、今期に入ると、その状況は常態化。内食を提供するお客様においては、これまで以上に労働が必要とされる製造現場に対して、自動化を推進する動きが多く見受けられます。一方で外食産業においても、デリバリーやECを新たに始めるお客様が多く、内食、外食ともに新しい動きが多い1年でした。食業界はコロナ禍の影響を受け、最も大きく変化した業界の一つだと言えます。

この変化に直面し、わたしたちと協働で新しい事業や商品の開発を始めたいという企業が本社MILABIにたくさんお越しくださいました。その多くが、今、事業として動き始めています。コロナ禍において、社員には一層お客様に寄り添い、苦勞を分かち合っしてほしいと伝えてきました。その気持ち、姿勢がお客様に伝わったのではないかと感じています。

こうして食業界は大きく変化しましたが、今、また外食産業の復活の兆しが見え始めました。しかし、全てが以前と同じ世の中に戻るとは考え難いです。ウィズコロナの時代で大切なことは、変化に柔軟に対応し、しっかり社会にコミットしていくことだと考えています。



さらなるグループシナジーで ビジネスのフィールドを拡げ 食をトータルサポート

わたしたちガリレイグループは、外食産業や小売業などの川下、いわゆる第3次産業から川中にあたる第2次産業の製造業や倉庫業、さらには川上の農業や漁業といった第1次産業へとビジネスのフィールドを広げ、“食”のトータルサポートを目指しています。この川下から川中、川上へと事業を拡げること、わたしたちは“山登り”と称しています。山登りをするためには、部署はもちろんのこと、会社の枠を超えたグループシナジーを発揮することが欠かせません。今年はフクシマガリレイとタカハシガリレイが協働でお客様の課題解決に取り組むといった案件もこれまで以上に多く見られました。言葉だけではなく、実際に案件が動き、そして、お客様に喜んでもらえたという成功体験が、今後もグループシナジーを加速させると信じています。

長期的なビジョンを明確にし 社会に求められる企業へ

ESG経営の中でも、特にわたしが重視しているのが社会性(Social)です。売上を上げること、成長することは企業において重要なミッションですが、それだけではいけません。経営を長期的な視点で捉えた時、社会性を高めることが大切です。事業そのものの社会性を高めることは当然のことながら、会社としてだけでなく、社員一人ひとりが実感できるものとして取り組んでいきたいと考えています。そのために、前年の税引き前利益の約1%を社会貢献に使う「ガリレイ1%クラブ」を2021年2月に発足させました。この取り組みを行うにあたって、決めているルールがあります。それは会社主導ではなく、社員自身が考えて自発的に行動するという。ボランティアに参加するなど、社員自身の社会貢献が、ひいては会社の社会性を高めていくのです。

環境(Environment)への取り組みについても、冷媒を

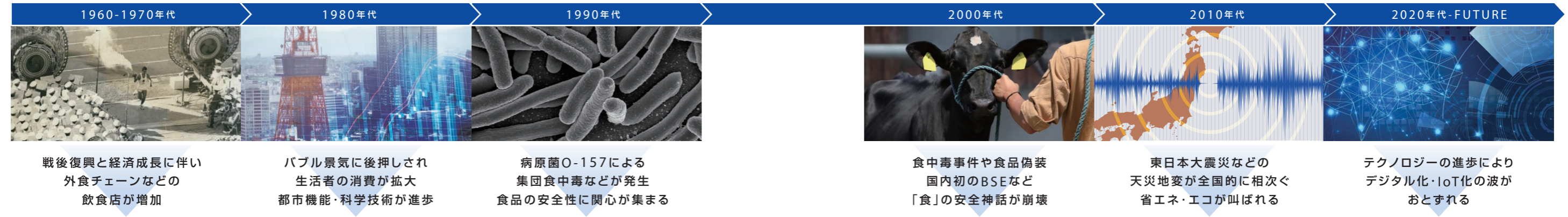
使って事業を行うわたしたちにはとても大きな責任があると感じています。創業100周年となる2051年を見据えてサステナブルビジョン『Dramatic Future 2050』を策定しました。これはSDGsの達成目標となっている2030年を通過点とし、温室効果ガスの排出量実質ゼロというゴールをガリレイグループが具体的な数値を掲げて取り組むというものです。30年後の未来に対する目標ですが、着実に進められるように社内で日々コミュニケーションを取り、社外にも情報を発信しています。『環境アクション2030』では、「冷媒漏洩10年保証」ということも掲げました。漏洩をゼロにすることは非常にハードルが高いのですが、わたしたちは2025年度製品・施工物件から漏洩ゼロを目指していきます。わたしたちがこうしたアクションを起こすことで、期待していることは業界全体の環境への意識も向上するという。例えば冷凍機はガリレイグループでは製造していませんが、冷凍機の漏洩保証も行うとなれば、冷凍機を製造している企業も一緒に取り組んでくれると思います。そうでなければ実効性が生まれません。形式的な目標ではなく、わたしたちができる環境保全をしっかりと実現していきたいと考えています。

社員一人ひとりが成長できる環境を作り 新たなガリレイグループを築く

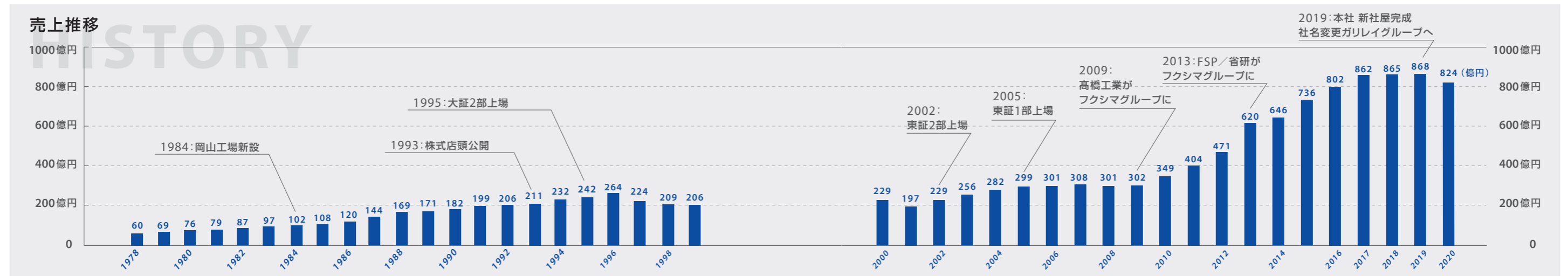
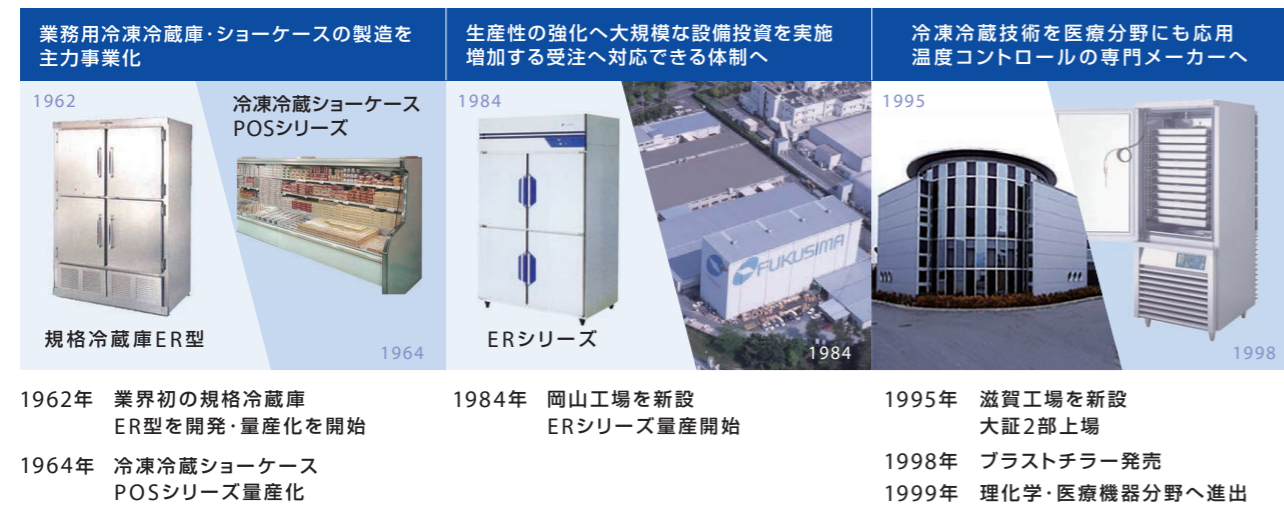
70周年を迎えたガリレイグループは、100周年に向けて歩みを進めます。これからの30年でわたしたちが成長し続けるために重要なことは、常に新しいことに挑戦するという姿勢です。より良い社会を作るためには何が必要で、わたしたちに何ができるかを社員一人ひとりが考えて挑戦すること。時には失敗をすることもあるかもしれませんが、新たな道を切り拓こうとする気持ちが人を育てます。失敗を恐れず、どんどん新しいことに取り組める環境を整えることが大切です。そのためにも、取締役会や経営会議など、経営における意思決定するガバナンス(Governance)に透明性を持たせることについても注力していきます。社員一人ひとりの成長が会社を変え、そして、これからのガリレイグループを作っていく。そう信じて、これからも歩みを止めずに進んでいきます。

福島工業からフクシマガリレイへの歴史

社会的課題・ニーズの変遷



ガリレイグループのソリューション



創業70周年を迎えて

“冷やす”に留まらない
お客様の要望に
お応えできる
ガリレイグループへ

専務取締役 福島 豪



国内の環境課題の解決を推進し アジア諸国の環境への意識を高める

『Dramatic Future 2050』の中で、“誰もがワクワクする未来を拓く”というメッセージを発信しています。これはガリレイグループのあるべき姿として、食といのちの未来を拓く挑戦者であり続けるという考えが基になっているものです。“いのち”という言葉の中には、人、そして、地球のいのちも含まれます。わたしたちが生きていくためには、地球の存続が不可欠です。昨今、環境への意識は高まっていますが、今は考えるだけでなく少しでも早く行動に移していかなければならない段階だと感じています。そうした想いを込めて策定したのがサステナブルビジョン『Dramatic Future 2050』です。このビジョンを策定するにあたり、フクシマガリレイだけでなく、各グループ会社も含めた横断的なプロジェクトチームを結成しました。そうすることで、今回のサステナブルビジョンをグループ全体で、かつ、社員一人ひとりが役割を実感できる体制を構築したいと考えたからです。この『Dramatic Future 2050』は2050年にCO₂排出ゼロ、冷媒漏洩ゼロにコミットすることが目標となっています。その目標に向

けて、まずは2030年にCO₂排出量を50%ダウン、そして、冷媒漏洩については2025年度製品・施工物件から冷媒漏洩ゼロにすることを目指し、研究開発や設備投資を積極的に進めていきます。

こうした環境保全に向けた取り組み、技術は国内だけでなく、環境課題の解決に積極的ではない国においてもしっかりと発信する必要があります。例えば、省エネ大賞を受賞したガリレイエアテックシステム。これはアジア諸国で導入され、活躍しています。こうした技術の輸出に伴って、アジア諸国をはじめとした海外の環境保全へのマインドも高めていく。それも、わたしたちのミッションの一つだという想いを抱えています。

技術革新を加速させ エンドユーザー・お客様・環境に より良い未来を

フードロスの削減は、ムダな生産をしないという側面から考えるとカーボンニュートラルの実現にも繋がる重要な社会課題です。その課題に対して、わたしたちはフリーザー

技術の確立によって賞味期限を延ばすことにすでに成功しています。また、食品販売の現場においては、賞味期限が近いものを安く購入できるように価格変動させる“ダイナミックプライシング”の研究を進めています。生活者にとってはお得で、かつ、フードロスも削減できる。生活者、食品業界の皆様、環境、その全てにより良い仕組みを届けられることを目指しています。

そうした新しい取り組みを今後もより加速させるためには、人材の育成がとて重要になります。現在、ガリレイグループには現場管理とメンテナンスを行う優秀な人材が約600名在籍しています。そのことはわたしたちの強みの一つです。その人材を強化していくことが、ガリレイの魅力を高めると言っても過言ではありません。そのために、技術者を育成する学校をつくることを構想しています。3か月半ほどの研修期間で、技術や資格の取得に向けた教育を行う予定です。ガリレイグループにとって、最も大きなバリューは“信頼”です。“冷えて当たり前”という期待を裏切ることなく、さらにその先にある“感動”を提供する会社になるためには、人材育成の底上げが欠かせません。教育を通して知識やスキルを向上させることで現場管理やメンテナンスの質を高め、さらに、モチベーションを上げることで技術開発へのチャレンジ精神が育まれると考えています。

次世代に向けた取り組みとして、ガリレイグループでは製品のIoT化や、AIを活用した新しいシステム、サービスの開発も推進しています。例えば、2021年10月に市場投入した「AI冷蔵ショーケース」。これはIT企業と共同で開発した製品で、欠品検知と欠品時期をAIカメラやセンサーで解析し、チャンスロスや廃棄を無くすというものです。また、機器の運転状況を24時間遠隔監視し、冷却不良など故障を予知するスマート診断の確立を進めております。実際にシステムの導入を始めており、基盤不良などを早期に発見し、冷却不良が発生する前に補修するという実績もできました。こうしたシステムの精度をさらに高めていくこ

とで、わたしたちが目指しているのが「Zero Call Company」です。「直す」から『止めない』にスタイルチェンジし、お客様からトラブルの電話がかかってくるのではない企業になる日も、そう遠くはないと感じています。

創業100周年に向けて お客様と共に新たな価値を共創する

わたしたちが現在の社名「フクシマガリレイ」に変更したのが2019年。その時、お客様に対しても、社内に対しても自分たちの存在を再定義しなければいけないという強い想いがありました。そんな折に、世界中がコロナ禍に見舞われることに…。食に関わる企業は、自分たちの意思とは無関係に変わらざるを得ない状況となりました。その中で、お客様と共に試行錯誤し、一緒になって新たな未来を拓いていくことで、わたしたちの存在価値を改めて示すことができたのではないかと感じています。しかし、まだまだ決して状況が良くないお客様がいらっしゃるのも事実です。そうしたお客様のために、グループ一丸となって力になろうという活気が今、社内に溢れています。こうした雰囲気大切にしながら、次の100周年を見据えて、皆様にますます必要とされるフクシマガリレイとして着実に歩みを進めていきたいと思えます。



Dramatic Future 2050

私たちが目指すサステナビリティは、生産からテーブルに並ぶまで温室効果ガスの排出を実質ゼロにすること。

食といのちの未来のために、何があっても挑戦し続けます。

それが必ず、誰もがワクワクする未来を拓くと信じているからです。



2050年

環境ビジョン2050

環境 Vision 2050

持続可能な地球環境を次世代に引き渡すことを目的に、2050年までの「カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現」に向け、「環境ビジョン2050」を掲げます。

- 1 グループ全体で温室効果ガスからの脱却を
- 2 冷媒をはじめ、クールな技術で地球温暖化をゼロに
- 3 環境と真剣に向き合うお客さまから選ばれる存在に

2030年

環境アクション2030

環境 Action 2030

2030年までのSDGs「13.気候変動に具体的な対策を」への取り組みを柱とし、環境先進企業として、ステークホルダーからの期待、社会に対して果たす責任を達成するため「環境アクション2030」を策定します。

<対応するSDGs>



2021年 「Dramatic Future 2050」の策定

Dramatic Future 2050

誰もがワクワクする未来を拓く、ガリレイグループ



グリーン冷媒への転換

低GWP冷媒、自然冷媒への転換を通じ、温室効果ガス低減に取り組み、地球温暖化防止に貢献します。



環境性能の高い製品を開発・提供

製品のライフサイクルにおいてより環境負荷の少ない製品へ移行します。



冷媒ガス漏洩防止

ITを駆使したサービタイゼーションによるプレメンテナン스의拡充により、冷媒漏れ10年保証を目指します。



CO2排出量削減

最新の省エネ技術の積極導入や再生可能エネルギーの活用などを通じ、バリューチェーン全体でCO2排出量削減に貢献します。

ガリレイグループが「環境Action 2030」として

掲げる4項目のうち、「冷媒ガス漏洩防止」は、

当グループが業界に先駆けて取り組む活動です。

ここでは、その具体的な活動内容についてご説明いたします。



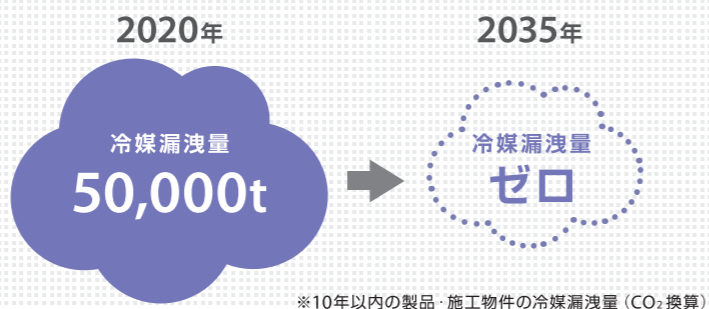
冷媒ガス漏洩防止

活動目標

2025年度製品・施工物件より**冷媒漏洩による地球温暖化ゼロ**を目指します。
また、プレメンテナンスの拡充により、**冷媒漏れ10年保証**を目指します。

2035年までに 冷媒漏洩量ゼロを目指す

2020年における冷媒漏洩量50,000t
(10年以内の製品・施工物件:CO₂換算実績)に対して、2035年には10年以内の製品・施工物件の冷媒漏洩量ゼロを目指します。



冷凍機内蔵製品

2025年度製造製品から
冷媒漏れ10年保証



冷凍機別置製品及び工事

保守契約による
冷媒漏れ10年保証



具体的な取り組み

製造時の対策

- 溶接レス又は溶接点数の削減
- 検査新技術の導入
- 材料劣化防止対策の拡充

施工時の対策

- 工事のDX活用

保守時の対策

- DX活用による予防保全

直す から **止めない** に
スタイルチェンジ

活動計画



を 超えた挑戦。

Dramatic Future 2050

ミライの「地球」と「温度」をまもりたい

地球を守るクジラのように

実は、クジラ達の存在が地球の温暖化抑制に貢献していることをご存知ですか？
わたしたちを含め全ての生き物は炭素でできていて、生きている間は炭素の貯蔵庫としての役割を果たしています。その中でもシロナガスクジラ、ザトウクジラ、ミンククジラなど体が大きく寿命が長い動物ほど、多くの炭素を体内に蓄えることができ、大型のクジラの場合、その量は1頭で何千本もの木々に匹敵すると言われています。さらに、クジラ達が生涯を終え海底に沈んでいく際は、毎年何万トンもの炭素を深海に運んでくれているそうです。
わたしたちフクシマガリレイも、地球温暖化の抑制に大きく貢献しているクジラ達のように、ともに地球を守る企業として挑戦を続けていきます。

ガリレイグループが切り拓く、
おいしさ、ゆたかさ、いのち、
しあわせの未来



ラインシステム
SHOKEN GALILEI



コンベヤ
SHOKEN GALILEI

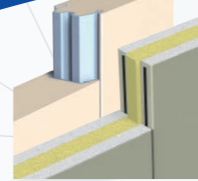
ショウケンガリレイ株式会社
SHOKEN GALILEI CO. LTD.

ガリレイパネルクリエイト株式会社
GALILEI PANEL CREATE CO. LTD.

小型プレハブ冷凍冷蔵庫
GALILEI
PANEL CREATE



パネル技術
GALILEI
PANEL CREATE



クリーンルーム
GALILEI PANEL CREATE



LSHOCK®
TAKAHASHI
GALILEI



トンネルフリーザー*
TAKAHASHI
GALILEI

タカハシガリレイ株式会社
TAKAHASHI GALILEI CO. LTD.

GALILEI

GROUP SYNERGY

ショーケース
FUKUSHIMA
GALILEI



フクシマガリレイ株式会社
FUKUSHIMA GALILEI CO. LTD.



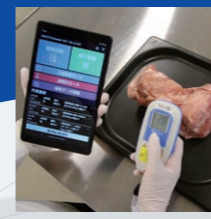
業務用冷凍冷蔵庫
FUKUSHIMA GALILEI



製氷機
FUKUSHIMA GALILEI



医療理化学機器
FUKUSHIMA GALILEI



温度管理システム
FUKUSHIMA GALILEI

POINT

グループシナジーの効果

- 事業の横展開による新たなニーズと市場の開拓
- 食のインフラにさまざまな角度からアプローチ
- 各社が築き上げた歴史を土台にグローバルに展開

価値創造モデル

食材の力を生かして、人々のいのちを育むために、
わたしたちは、クールな技術を進化させ続けていきます。

わたしたちガリレイグループは、生活に不可欠な食のライフラインを支える者として、世界中の食生活の品質向上を図るために事業領域を拡大し、冷熱技術をさらに進化させていきます。
スマートシフトをより加速させ、成長を続けながら、世界におけるフードビジネスのリーディングカンパニーとして、革新的なイノベーションを創造し続け、持続可能な社会の実現に貢献し、社会的責任を果たしていきます。

事業を通じた社会的価値

Dramatic Future 2050

誰もがワクワクする未来を拓く、ガリレイグループ

ガリレイグループの事業

各ステークホルダーへのソリューション

投入する資本

<財務資本>

安定した財務体質
自己資本比率66.8%
(2021年3月末現在)

<知的資本>

グループ各社が蓄積する
独自のコア技術と開発提案力

<製造資本>

グローバル展開する生産拠点
(滋賀・岡山・タイなど)

<人的資本>

グループ統一の理念を実践する
従業員 2,205人(2021年3月末現在)

<社会/関係資本>

仕入先・代理店・地域社会との信頼関係
国内74カ所・海外11カ所の
支店・支社・営業所

<自然資本>

限りあるエネルギー資源

フクシマガリレイ株式会社

FUKUSHIMA GALILEI CO. LTD.

- ・冷凍冷蔵事業
- ・サービス事業
- ・ショーケース事業
- ・エンジニアリング事業
- ・FMS事業
- ・海外事業

タカハシガリレイ株式会社

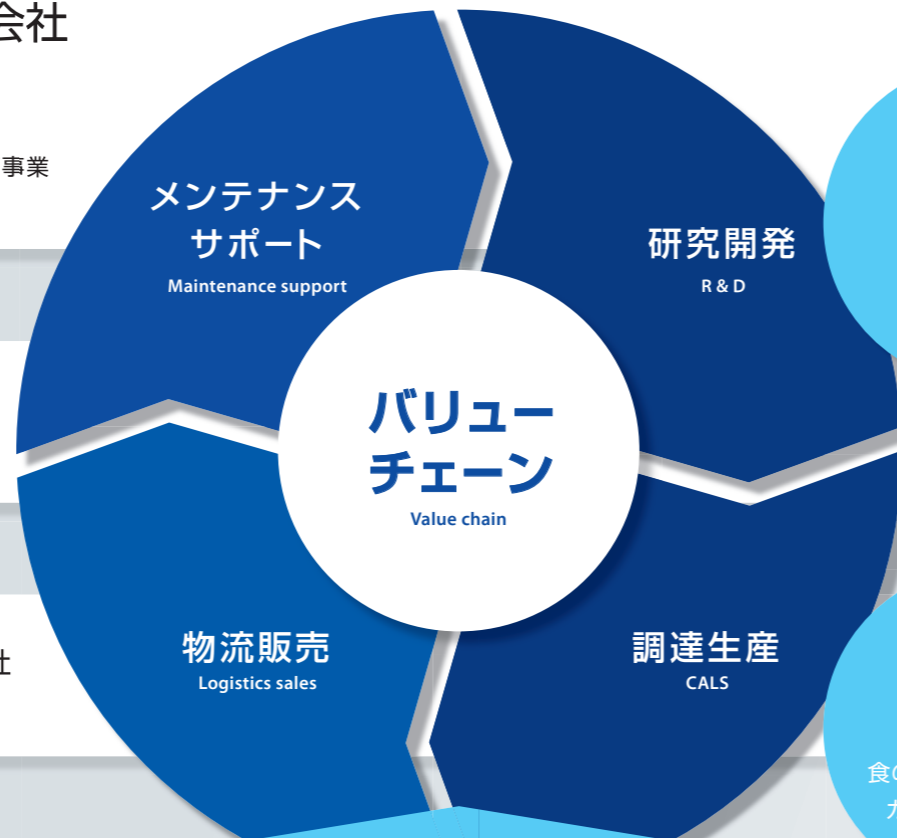
TAKAHASHI GALILEI CO. LTD.

ガリレイパネルクリエイト株式会社

GALILEI PANEL CREATE CO. LTD.

ショウケンガリレイ株式会社

SHOKEN GALILEI CO. LTD.



01
Advantage

独自技術による
価値創造

02
Advantage

食の川上から川下まで
ガリレイグループの
全社連携

社会
SOCIETY

社員
EMPLOYEE

お客様
CUSTOMER

お取引先
SUPPLIER

株主
SHAREHOLDER

共同研究

異業種企業や起業家とコラボし、新たな製品やシステムの開発に挑みます。

オープンイノベーション

— MILAB —

産学連携

大学などの研究機関と脳智を集結し、世の中にない技術やアイデアの開発に取り組みます。

社会・環境の変化

フードロス

需要を超える量の過剰生産などの要因となり、本来食べられる食品を廃棄する問題が深刻化しています。



気候変動

温暖化により地球の平均気温が変化することで、世界各地で自然環境や人の暮らしに影響や被害が現れ始めています。



エネルギー問題

環境負荷が高いとされる化石燃料などの使用を減らし、CO₂を排出しないエネルギー源の使用比率を高める動きが求められています。



GALILEI GROUP SDGs

ガリレイグループSDGs宣言

▶ 食の安全・安心の追求

- 急速冷却・解凍技術で菌の繁殖を抑える
- AIによるプレメンテナンスとHACCP支援を実現するシステム開発
- 産学連携の場となるMILAB
- トータル提案・設計・施工できるエンジニアリング事業

▶ フードロスの低減

- コールドチェーンで食品の鮮度維持
- トンネルフリーザー®で消費期限をより長く

<対応するSDGs>



▶ 気候変動への適応と緩和

- グループの全製品・設備における、低GWP冷媒、自然冷媒への急速な転換
- 冷媒漏れ検知システムと製品品質・工事施工技術の向上で、冷媒漏れ10年保証を実現する

▶ 持続可能な地域環境への貢献

- 冷凍冷蔵機器・空調・給排気・換気までAIでコントロールし、省エネ・快適、そして感染症対策まで考慮した店舗づくり
- ITを駆使したサービタイゼーション
- LCAを意識した製品開発
- 省エネルギーの追求

<対応するSDGs>



事業内容・Synergy Solution

ガリレイグループが構築する「食のコールドチェーン」は世界中の食文化を豊かにする

人々が口にする食材を安全・安心な状態で届けるために、ガリレイグループの「冷やす力」はあります。各社・各事業が育んできた技術とノウハウを掛け合わせ、産地から食卓までをグループ独自の「コールドチェーン」でつなぎます。



GALILEI GROUP

ガリレイパネルクリエイト株式会社

GALILEI PANEL CREATE CO. LTD.

P24 >>

高性能断熱パネルの技術とシステムエンジニアリングで、食品加工工場、植物工場などに最適な「冷凍冷蔵空間」「クリーンな作業空間」を提供しています。



タカハシガリレイ株式会社

TAKAHASHI GALILEI CO. LTD.

P25 >>

連続式の急速凍結・冷却装置「トンネルフリーザー」を業界で初めて開発・設計・製造したパイオニアです。創業から60年の実績と国内シェアNO.1を誇ります。



ショウケンガリレイ株式会社

SHOKEN GALILEI CO. LTD.

P26 >>

1968年の創業以来、食品工場向け機械設備・駆動系装置の専門メーカーとして、数多くの生産ライン・物流ラインの自動化・省人化・省力化を実現しています。



Synergy Solution

ガリレイグループ シナジー ソリューション

わたしたちガリレイグループでは、フクシマガリレイの各事業部と、各グループ会社とが連携することで、お客様と社会に一つ上のソリューションを提供してまいります。

CASE 01

複合ニーズへの総合提案 【製パン業】

インターネット販売への展開など、市場の変化に伴う食品の凍結ニーズをきっかけに、今後の需要拡大を見越した新工場建設のご相談を頂きました。

グループソリューション

当初はプラスチックでの急速凍結をご希望されていましたが、ヒアリングを重ねた上でトンネルフリーザー®と冷凍倉庫をご提案しました。

トンネルフリーザー®はタカハシガリレイが、冷凍設備とパネルについては、エンジニアリング事業とガリレイパネルクリエイトの連携により、一貫して対応しました。



トンネルフリーザー®

冷凍設備

CASE 02

外食から新業態への転換を支援 【飲食業】

コロナ禍で外食業態が厳しくなる中、お弁当やデリバリーを開始されましたが、さらに安定した経営のために店舗効率化が課題でした。

グループソリューション

お弁当・デリバリー対応拡大の為セントラルキッチンを新設し、店内調理の効率化を図りました。エンジニアリング事業が設計を担当し、セントラルキッチン内の断熱パネルはガリレイパネルクリエイトのノウハウが活かされています。また本社MILABにお越しいただき、冷却調理のレクチャーや食品研究室での菌検査を実施し、安全な食品の提供のお手伝いをしています。



断熱パネル

MILAB

事業別紹介

冷凍冷蔵庫事業

REFRIGERATOR AND FREEZER OPERATIONS

GALILEI



外食産業の新しいニーズに
ニューノーマルな製品づくりで応える

飲食店のeコマース進出を 冷やす技術で後押しする

今年の業績に関しては、コロナ禍におけるテイクアウト用の商品を保管する冷蔵庫や凍結させるプラスチックラーの需要が高まり、コロナ禍前に当たる2019年度とほぼ同等に推移。ウィズコロナ時代におけるニューノーマルな製品は、今後も好調が続くと予想しています。しかし、外食産業が以前のように戻るとは考えにくい部分もあります。そのため、テイクアウトや配達、冷凍食品などの需要が高まる分野に対するニューノーマル製品の開発に、今後も注力する意向です。現在、店舗で提供していたメニューを凍結させて、ECサイトで販売する事例が非常に増えています。そうした背景を受けて開発した製品が、限られたスペースしかない厨房にも導入できる小型の「プラスチックラー/ショックフリーザー100V」。単相100V電源で急速凍結までできる製品で、今後の主力製品として期待されています。



単相100V電源で-40℃での急速冷却・急速凍結が可能なコンパクトモデル

プラスチックラー/
ショックフリーザー
100V

食の安全・安心を守り フードロス削減に貢献

冷凍冷蔵庫事業におけるSDGsに関する取り組みとして、グリーン冷媒への転換や省エネ性能の追求は当然のことですが、食の安全・安心を守ることによってフードロスの削減にも貢献しております。当社では以前より「HACCP ExAround」などの温度管

理システムを自社開発、販売しており、冷凍冷蔵庫などのハードとソフトの連携によるソリューションのさらなる普及を目指しています。このシステムは、食品提供の全工程において、IoT化により温度・衛生状態を管理・記録し、HACCPに準拠した衛生管理を自動化することから、業務の効率化・省力化、フードロス削減に貢献します。さらに、食材の仕入れから保管、加工してお客様に提供するまでを見える化する新しいシステムの開発にも他社と協働で取り組んでいます。安全・安心に食品を保管しムダなく提供することが、厨房におけるフードロス削減につながります。

グループシナジーを加速させ 新たなニーズに応え続ける

ガリレイグループ全体のシナジー効果を発揮していくには、厨房全体を意識した提案が必要です。冷凍冷蔵庫単体の販売だけではなく他社商品を含めたメンテナンスまで求められることもあります。そこで重要となるのがサービス事業との連携です。社内でメンテナンスを行えるのはガリレイグループの強みです。サービス事業との連携を深め、「ずっとフクシマガリレイ」という状況を作り、使っていただくユーザーの要望を取り入れてグループ全体でより良い提案をまいります。もちろん、HACCPが義務化されたことによる省人化、自動化を実現する温度監視システムなどの販売も注力すべきポイントになります。また、省人化に加えてコロナ禍における非対面の設備という側面から、飲食店で広く活用されている受取用ロッカーも需要が急激に高まっている製品です。さらに、これからは厨房で調理を自動で行う機械を導入したいという声も増えています。そうした新しい時代のニーズに他事業と連携して応えていくのも冷凍冷蔵庫事業、そして、ガリレイグループのミッションです。

事業別紹介

ショーケース事業

SHOWCASE OPERATIONS

GALILEI



最先端テクノロジーで
顧客と地球の未来を切り拓く

スーパーマーケット・ドラッグストアを 中心に好調に業績が推移

ショーケース事業のメイン顧客であるスーパーマーケットは、コロナ禍における緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の影響で売上が伸び、前年下期より設備投資が積極的にされており、今期もその傾向は継続しています。さらに好調なのがドラッグストアです。地方で郊外型の店舗を出店しているところは今まで以上の積極的な設備投資をされ出店を拡大しております。またコンビニエンスストアも業績が回復基調にあります。お客様方の業績が好調なため、ショーケース事業は順調に売上が伸び、前年同期比約140%で推移。今後は外食産業も含めて市場が回復すると予測されますが、ウィズコロナの中、引き続き感染対策を含めた、新しいビジネスのかたちの要望が続いていくと捉えています。そこに対して、わたしたちのシステムやIT技術を使った製品はますます必要とされるはずで

2020年3月にリリースした別置型冷凍冷蔵オープンショーケース「CLAIR Send-you」は、多くのお客様に導入していただいています。発売から1年半以上が経った今、お客様からさらなるご要望も数々いただいています。そうした声を活かし、すでに製品の改良も進めています。「CLAIR Send-you」は別置型ショーケースの外装変更を含んだモデルチェンジでしたが、コンセントを挿せば使用できる内蔵型ショーケースも「CLAIR Send-you」の外装を採用し且つ環境に配慮した低GWP冷媒対応の機種にモデルチェンジし順次、発売・導入を進めております。

ノンフロンを推進し 環境負荷を低減

今、脱炭素に向けた動きが国内外の企業で急速に進んでいます。わたしたちの製品は多くのエネルギーを使用する為、社会にどのように貢献するかを明確にしなければなりません。そして

掲げたのがサステナブルビジョン「Dramatic Future 2050」です。中でも、ショーケース事業が注力すべきはフロン冷媒の切り替え推進です。前年よりグリーン冷媒へ転換を進めており、スーパーマーケット・コンビニエンスストア店舗で実績が急増しています。新たに製品単体での環境指数を算出し、環境性能の高い製品開発と環境負荷の少ない製品への移行に注力しています。

ユーザーインのものづくりで 小売業と次の時代を創造する

わたしたちがお取引している小売業は、製造小売業へと転換しています。スーパーマーケットにおいても、自社製造オリジナル商品が増え、当社にはこれまでのような冷蔵設備の要望だけではなく、生産設備の導入要望が増加しています。そのためタカハシガリレイやガリレイパネルクリエイトと連携しガリレイグループシナジーを活かして、お客様のニーズに応じていく機会がますます増えていくと予想されます。AIソリューションについては、コンビニエンスストアの無人店舗に始まり、キャッシュレスの推進において、当社に求められる要望も大きいと感じています。これまで人の手で進めていた仕事をデータ分析し、システム化するということが今わたしたちに求められている課題です。その課題を解決するためには、お客様のご要望にお応えするだけではなく、さらにご使用になる生活者の立場にたったユーザーインのものづくりで製品・システムの開発・提案が重要です。お客様、社会に受け入れられる会社となるよう取り組んでまいります。



事業別紹介

FMS事業

MEDICAL SCIENCE OPERATIONS

GALILEI



社内外との連携を深め
医療・理科学の発展に貢献する

高まる薬用保冷庫の需要と共に
売上は前年の約135%に

今年度の上期の売上は、前年同期比の約135%で推移しました。その要因は、コロナワクチンの保管用冷蔵庫の需要が高まったことです。クリニックや集団接種会場において、ワクチンの解凍や一時保管するための薬用保冷庫が求められました。また、クリニック以外にも、大学や研究機関でのニーズが高まったことも売上が好調に推移したポイントです。コロナ禍に対応した製品だけでなく、新製品の開発、発売も計画しています。超低温フリーザーでは、5機種の新製品を追加。市場の要望にあったノンフロンタイプなどをラインナップすることで、コロナ禍による需要だけでなく、主体的な販売戦略を推進していきます。この新製品の発売を機に、超低温フリーザー業界におけるシェア20%を目指します。環境問題の解決に貢献することを求められているため、ノンフロンタイプの冷蔵庫は、特に大手の製薬会社や食品会社からニーズが高い製品となっております。省エネであることはすでに前提の世の中になっていますので、さらにお客様の環境への取り組みを推進してまいります。

技術連携を加速させ
健康な未来を創造する

医薬品流通においては、バイオ医薬品や再生医療等製品など、高額で温度変化や衝撃などの厳格な品質管理が必要な医薬品が増加しています。そうした背景の中で、今社会からわたしたちに求められているのが、廃棄ロス削減や省人力化の実現です。わたしたちは、医薬品卸会社と共同で、IoT技術であるトレーサビリティシステムを導入した製品を開発しました。これにより、中に何が入っていて、どのような管理をするか、データで管理することが可能になりました。この新製品は、医療機関

による人材不足や、医療がひっ迫した際に起こりがちなミスの軽減に貢献できます。

また、グループ会社と連携して提案する機会もますます増えています。施工はもちろん、庫内各所の温度推移の測定評価、冷蔵倉庫の運用についての助言なども含め、当社の経験と技術で貢献していきます。医療・理化学分野では、パネルを利用してプレハブのクリーンルームや特殊空調を組み合わせた高温高湿庫などの特殊庫を作ることがあります。今後、製品販売だけでなく、空間全体の設計をすることにも挑戦していきたいと考えています。一方で、グループ全体で、食に関連するお客様が多いこともあり、検査室導入の相談なども頂く機会が増えています。検査・衛生カタログを作成し、グループ内で共有することで、お互いの強みを活かしながら、お客様のニーズにグループ一丸となってお応えしています。



事業別紹介

サービス事業

SERVICE OPERATIONS

GALILEI



デジタルと技術の両側面からメンテナンスの質を高め
「Zero Call Company」を目指す

「冷媒漏れ10年保証」で
メンテナンスを強化

前年度はコロナ禍で内食化が進み、スーパーマーケットやドラッグストアから圧縮機交換や冷媒漏れ修理などのメンテナンス対応を求められる機会が多くなりました。今後もスーパーマーケットやドラッグストアの好調は続く予測され、飲食業においても営業を再開されている店舗が増えたことから、今後もメンテナンスの必要性は高まると考えています。また、コロナ禍で宅配や冷凍販売を行う飲食店が増えたことで、冷蔵庫、ショーケースの販売だけでなく、プラスチックなどの導入も広がりました。これらの機器に対するメンテナンスも、将来的には必要となると予測されます。今後注力するポイントは、大型倉庫をはじめとするエンジニアリング事業の保守、そして、環境の側面からCO₂冷媒のメンテナンスの推進です。メンテナンスにおいては、『環境アクション2030』の中で「冷媒漏れ10年保証」を掲げています。これはサービス事業において、最も重要なミッションの一つです。10年間保証ということは、決して簡単なことではありません。しかし、お客様の環境保全への意識が高まったこと、そして何よりも、お客様に長きに渡って安心してわたしたちの製品をご使用いただくためです。「冷媒漏れ10年保証」の取り組みは、SDGsの食の安心・安全を確保すること、フードロス削減の未来につながっていきます。

DX化をさらに推進し
機器トラブルを未然に防ぐ

2020年度より、サービスシステムと他システムとの連動、機器トラブルの事前予知に向けたSネットの準備など、事業活動全体のボトムアップを図ってきました。そして、今、わたしたちが目指しているのは、DX化を推進することによって全国くまなく機器トラブ

ルを予防・保全・維持管理する「Zero Call Company」です。これまでに蓄積した膨大なデータから故障を事前に予測し未然に防いだり、修理データから類推できるものは予めサービスマンのスマホに情報を届けたりするなど、より早く、正確でスムーズなメンテナンスを提供できるような仕組み作りを進めています。DX化の推進と同時に、メンテナンスの質を向上させることも重要です。下期からは、サービス戦略室が本格的に始動しました。エンジニアリング事業との連携、タカハシガリレイとの技術共有など、事業部や組織の枠を超えて、お互いにメンテナンスの質を向上させていくことが目的です。全国のそれぞれの地域で最も支持されるエリアナンバーワンの会社になるという目標を掲げ、技術職の採用や教育を強化し、さらに多くのお客様にお役立ちするためにグループ全体で取り組んでまいります。



事業別紹介

エンジニアリング事業

ENGINEERING OPERATIONS

GALILEI



グループシナジーを最大限に活かし
地球とお客様のより良い未来を創造する

内食化のニーズに応える
製品の販売で売上が伸長

エンジニアリング事業では、コロナ禍により内食化が広がったことで、家庭用向けの商品を製造する製品の売上が非常に好調に推移しています。特に冷凍弁当などの調理済み食品を提供するビジネスでは、多くの新規参入が見られ、多くのご依頼をいただきました。また、ネットスーパーなどのECサイトの動きが活発になったことから、PCセンターや低温物流センターにおいても好調を維持しながら推移しています。コンビニエンダーにおいては、冷凍分野の商材を強化されていることから、新しい設備への投資が始まっている状況です。これは顧客ニーズに応えると同時に、廃棄ロスを低減するSDGsの観点からも推進されています。今後の動向については、外食産業も回復しつつも、完全復活までには時間がかかると予測されるため、冷凍弁当などの需要は高まると見通しています。

グループシナジーを強化し
組織力で勝負する

従来からエンジニアリング事業の商材として、プレハブ解凍庫やプレハブ型のプラスチックなどをPRしてきました。これらの製品をお客様のニーズに合わせてさらにブラッシュアップし、わたしたちの得意分野を明確に確立させたいと考えています。また、食品工場の生産設備を提供するための設計力の強化にも尽力する方針です。具体的には、工場加熱調理したものを、タカハシガリレイのフリーザーで急速に凍結する設備に対して、加熱ラインも含めた設計をわたしたちが提案、提供することを考えています。そうすることでガリレイグループとしての間口を広げていく考えです。グループシナジーを強化する取り組みとして、2021年7月15、16日の2日間、タカハシガリレイ、ガリレイパネルクリエイイト、ショウケンガリレイ、そしてフクシマガリレイの4社合同で

初のプライベート展示会ガリレイEXPOを開催しました。2日間で約700名の方に来場いただき、各社の製造ラインや新たなフリーザーなどを見学いただきました。そうした取り組みを進めることで、フクシマガリレイからタカハシガリレイのフリーザーを販売したり、逆にタカハシガリレイからフクシマガリレイに冷蔵設備の工事を依頼したりするなど、会社の枠を超えた案件が増加しています。



最新鋭の機器とシステムで
環境と省人力化の課題解決へ

SDGsへの貢献として、グリーン冷媒機器の積極的な提案を行っています。CO₂冷凍機を使った施工案件を強化していくというものです。実際に施工案件、設計中の案件もあり、年々件数が増加しています。また、エンジニアリング事業の案件は非常に大きなエネルギーを必要とするため、エネルギーの無駄をなくすることも重要な課題です。設備を導入するだけでなく、エネルギーの使用状況を監視するシステムも併せてご提案することで、無駄なく稼働していただけるよう取り組んでいます。このシステムは自動で温度管理や記録ができることで省人力化にも貢献。HACCPの義務化に対応する商材でもあります。こうした商材を軸に、地球環境とお客様のより良い未来を創造していきたいと考えています。

事業別紹介

ガリレイパネルクリエイイト株式会社

GALILEI PANEL CREATE CO. LTD.

GALILEI



これまでの常識にとらわれず
パネルの新たな可能性を引き出す

工場の設備投資が活発化し
過去最高売上の見通し

前年度はオリンピックイヤーということ踏まえて、工場の設備投資を控えられるお客様が多く見受けられました。今年度に入ってその状況が一転し、設備投資の動きが非常に活発化しています。特に下期の施工依頼が多く、前年同期比125%で過去最高の売上を見通しています。内訳としては、食品工場、コンビニエンダー、PCセンター、低温物流センターからの引き合いが多く、加えて注力してきたクリーンルームにおいては医薬品業界や半導体やリチウム電池工場などからお声がけいただいている状況です。これまで食品関係がメインでしたが、食以外の分野での受注が拡大していることで、今夏、増強した生産ラインもすでにフル稼働となっています。食品業界以外で、且つ、非冷分野のクリーンルームを設置することは、わたしたちが特に注力している事業でもあります。設置に伴い必要となるシステム天井についても、協力会社と協働することで積極的に受注を増やしています。特に、リチウムイオン電池は今後世の中で求められることが想定されるため、クリーンルームの設置がさらに求められると予測しています。

建材としてのパネルで
新たな販路を切り拓く

さらに、新たな取り組みとして進めているのがパネルの耐震強度の調査です。日本は地震が多く、さらに近年では大規模な自然災害も多々発生しています。そこで、建材としてのパネルの耐震強度のデータ収集を推進。データに基づいた地震に強いパネル構造体を目指したいと考えています。販売チャネルでもゼネコンや設計会社など、これまでの食品分野とは異なるお客様の専門の組織も構築し、さらに販売を推進していきます。

製造する全パネルをノンフロン断熱にし
省エネと環境保全に寄与する

SDGsの貢献に向けた取り組みとして、前年に引き続きノンフロン断熱パネル「econeal (エコネア)」の販売の強化を推進。これは地球環境にやさしい新発泡剤HFO (ハイドロフルオロオレフィン) を使用することで品質 (断熱性・外観) と環境配慮を両立させるパネルです。現在、わたしたちが製造するパネルは、すべてノンフロン断熱パネルとなっています。また、食品工場において、従来は冷蔵庫、冷凍庫にパネルを使用するというのが一般的でした。しかし、生産ラインも温度管理が必要となるため、生産ラインの間仕切りもわたしたちのパネルを使用するという動きが出てきています。そうすることで、工場全体で断熱し、エネルギーコストを抑制。省エネを実現し、環境保全にも寄与します。

econeal

Eco + Connect + Earth

- Eco — 環境に配慮したパネルで
- Connect — お客様とガリレイグループ お客様のお客様まで みんなをつないで
- Earth — 環境と大地・地球を結ぶ



事業別紹介

タカハシガリレイ株式会社

TAKAHASHI GALILEI CO. LTD.

GALILEI



一步先の社会を見据えた製品開発
技術革新で次の未来を創造する

設備投資が急増し
売上は前年同期比175%

前年度はコロナ禍の影響により、国内では中小企業の設備投資が一気に冷え込みました。大手企業においても、中小規模の設備投資に留まり、非常に厳しい業績になりました。しかし、今年度は状況が一転し、大型の設備投資をされる企業が急増。また、1案件あたりの単価も、例年の2~3倍に増額する企業が多い傾向にあります。中小企業においても、大幅に成長されている業態が現れ、新たな工場を建設するなど、例年以上に設備投資を推進されています。結果的に上期の売上は前年同期比175%となりました。今後の見通しとしては、ここから2年程度はこの状況が継続すると考えています。それは、現時点の案件の多くが、来年、再来年までを視野に入れた計画だからです。一方で、外食産業も回復傾向にあります。2年後、現在のように内食化が定着しているのか、それとも外食する日常が完全に復活するのかによって、また食品業界の動向も変化しますので注視してまいります。

小型モデルに続き
大型モデルのフリーザー改良へ

製品開発においては、前年まで小型モデルを追求してきました。その理由としては、厨房やセントラルキッチン、食品メーカーなどの設備と比較すると小型なため、そのスペースに入る連続式のワンサイズ小さいフリーザーが求められるからです。しかし、今年に入ってから大手企業の設備投資が増え、また、これまでご依頼の少なかったスーパーマーケットのセンターからも多く引き合いをいただくようになり、想定以上に大型のフリーザーが求められるようになりました。そのため、現在、小型モデルは追求しながらも、大型フリーザーの改良に着手しています。それは、これまでと同じものを単純に大型化するものではありません。自然冷媒を取り入れ、連続生産時間を1.5倍にしたりするなど、より高度なものへ

と進化させています。その背景には、大手企業が抱えるSDGsや産業廃棄物への課題があります。大型モデルの提供によって、そうした課題も解決することを目指しています。そして、次に考えていることは、この技術をいかに中小企業へ転換するかということです。前述したように、2年後の市況は現在とは異なっていると予測されます。復活する中小企業や新規参入するベンチャーも増えるはずですので、その時に、わたしたちの技術を応用できれば、さらに時代に即した製品が提供できます。

最新鋭の技術を追求し
社会のニーズに応える

現在、わたしたちにご依頼いただく製品の1割程度が自然冷媒を使用するオーダーです。今後ガリレイグループ全体として、自然冷媒の割合を上げていく方針です。その中で、設備規模の大きさから考えると、わたしたちの果たすべき役割は小さくありません。そのため、3年後には全体の2割にあたる製品を自然冷媒にすることを目標としています。

またHACCPが義務化されたことで、DX化ということも今後の鍵になります。既存工場に対してタカハシガリレイとしてご提案しているのは、トンネルフリーザー®の遠隔操作です。また、新設する工場に対してはフリーザーを含めて、ガリレイグループ全体でHACCPを推進できるようにトータルにシステムをご提案することで、企業の省人力化に貢献してまいります。



事業別紹介

ショウケンガリレイ株式会社

SHOKEN GALILEI CO. LTD.

GALILEI



食品工場の川上から川下まで
一気通貫して最適なラインを構築する

コロナ禍で控えられていた設備投資が
来期以降、一気に動き始める

今期はコロナ禍の影響を受け、新たな設備投資を控えられるお客様が多く、受注内容は既存設備の改造・改修がメインとなりました。ワクチン接種も進み世の中の動きに合わせて、大型の新設・増設案件の引き合いが増えてきましたが、通年の業績としては思わしくない結果となる見通しです。しかし、前年今年と大きな投資を控えられていたお客様が一斉に動かれて、来年再来年にかけては、新工場案件や大型設備計画の引き合いも多く好転する見通しです。動向を注視しながらしっかり取り組んでまいります。

わたしたちは前年度「ロボットSler(システムインテグレータ)」としての成長を戦略テーマに掲げて、食品工場の機械設備や駆動系装置などの製造販売を行っており、引き続きシステムインテグレータの事業を推進しています。今夏のガリレイEXPOでもロボットSlerの2号機を発表しており、今後も積極的な開発を進めていく予定です。食品工場を一連の流れでみると、従来から数多く取り組んできたフリーザー前後装置も含めた製造工程よりも、包装工程の方がロボット対応可能な作業の割合が高くなっています。特に包装工程ではSDGs推進による包装資材や形態の見直し、時代の変化に合わせた改修の必要性が高まるのではないかと予測しています。その時に、わたしたちなら自動機でも、ロボットでも、システムから組み上げること

ができ、さらには、搬送機械も含めた自動化まで一気通貫して提案できることを訴求できれば、お客様にとって最適最善な設備導入にもっとお役立ちができるようになると考えています。包装工程においても積極的に自動化・省人化・省力化の提案を進めていくことは、お客様の「食の安心・安全・安定」を実現することにつながり、ひいては、お客様のSDGsへの取り組みに貢献してまいります。

今ある技術をさらに進化させ
HACCPへの取り組みに貢献する

HACCPが義務化される以前から、データを用いて設備監視されるお客様は見受けられました。そうしたお客様に対しては「必要なデータをアウトプットする」ということを行っていました。単純にアウトプットするだけでは、お客様で分析するために多くの時間を費やしてしまうこととなります。今後は、運転や異常の履歴を機器に蓄積して、故障診断や設備保全につなげられる仕組みを構築してまいります。それは運転履歴や運転記録から導き出すことができるため、決して遠くない未来に実現できるのではないのでしょうか。故障してから対応していれば復旧までに時間がかかってしまいます。少しでもロスをなくし、お客様の生産性向上に貢献できるシステムを提供できるように今後は開発を進めてまいります。また、どこにいても運転状態、履歴を見られるようにすることが重要です。現場は近場もあれば遠いところもあり様々で、まず遠隔から接続して機器状態を把握し、診断するというやりとりでお客様にて復旧できることが理想です。事前準備の精度を上げて対応できるようにし、当社がお役立ちできる幅を拡げて、お客様の生産性向上や、フードロス低減に貢献できるよう、成長し続けます。



海外事業

日本の動向と海外事情を踏まえ
中国、東南アジアの食の安全、環境保全に貢献

FOREIGN OPERATION

現地顧客との実績も増やし 今後の業務拡大へ

本年度の海外事業の業績は、今期清算中の北京工場に関連する数字を除外して比較すると、通期の売上は前年を約10%上回る見込みです。しかし、今期はコロナ禍の影響で複数の国のロックダウンが続いており、受注済みの案件に関しても工事が着手できない苦しい状況でもありました。それが要因で下期の業績見込みは消極的になっています。来期以降については、外食産業は引き続き営業を抑制される状況が継続されると予測されます。しかし、台湾、香港、中国についてはコロナウイルスの感染を抑え込んでいる状況で、コロナ禍以前の経済活動が回復傾向になっており、今後の受注増加が期待されます。外食向け厨房分野で落ち込んだ数字は、日本同様に好調なスーパーやコンビニエンスストア向けショーケース販売と食品工場をはじめとするエンジニアリング分野でカバーしてまいります。エンジニアリング分野では、競争力の高いタカハシガリレイのトンネルフリーザー®販売に実績が出始めたため、ここを拡大していきます。また、これまでわたしたちは日系企業との取引がメインでした。しかし、現在は現地のスーパーマーケットや食品メーカーとの取引も始まっており、今後の業績拡大への手応えを感じています。

これまでは業務用冷凍冷蔵庫とショーケースの2本柱で販売をしてきました。その中で、業務用冷凍冷蔵庫はタイ工場製品が充実してきました。これまで日本から輸入してきたものをタイ製品に切り替えることで、価格競争力を武器に販路



を拡大していく考えです。また、今まで行っていなかった中国に向けた輸出を2022年から開始する予定です。もちろん、今後は中国だけに留まらず、現地法人がない国に対しての輸出を開拓していきます。

環境保全の意識向上も含め 自然冷媒を推進する

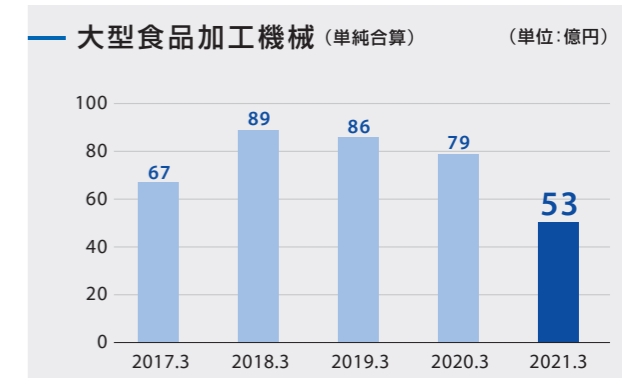
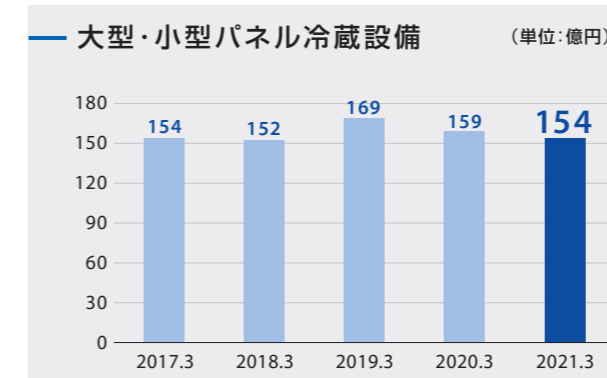
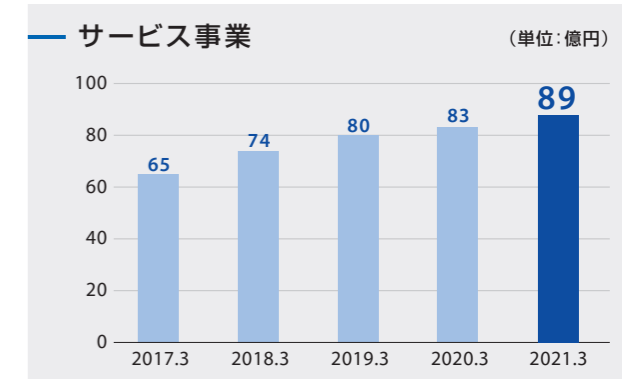
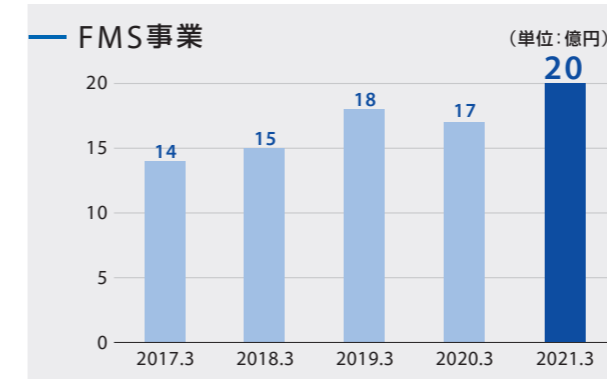
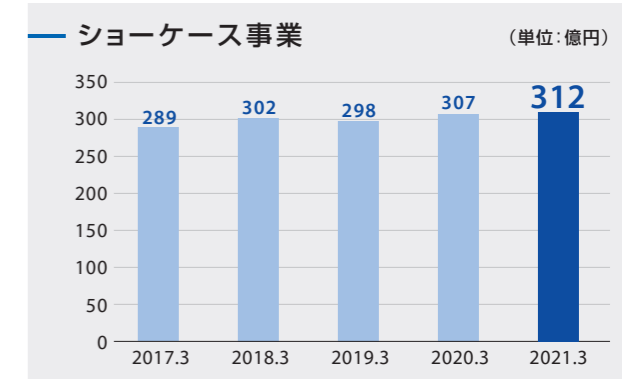
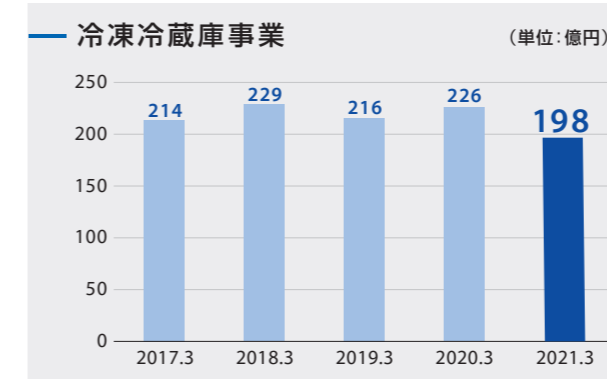
アジア圏の企業ではSDGsの取り組みへの関心がまだまだ高くありません。しかし、ガリレイグループとしては、「生活者の食生活品質の向上を」「地球環境にもっと優しく」という目標を掲げています。スーパーマーケットやコンビニエンスストア、工場設備などは多くのフロンを使用するため、新たな設備を導入される企業に向けては、積極的に自然冷媒に置き換えていく提案を推進していきます。中国では大型プレハブ冷凍冷蔵設備に対しては、「CO₂冷媒を導入すること」という規制も打ち出されました。この流れは、各国に広がると予測されますので、わたしたちも設計の段階から携わってご提案していきたいと考えています。また、各国にはサービスマンがいるため、「冷媒漏れ10年保証」について海外事業でも遂行し、メンテナンスの側面からお客様との信頼関係をしっかりと築いていく方針です。

ガリレイならではのシステムで アジアの国々の省人力化への貢献へ

現在、ショーケースやバックヤードの温度を24時間自動検知するクラウドサービスを、わたしたち海外事業でも提供しています。このシステムを各国で普及させる活動を行っており、アジア圏でも導入する企業が見受けられるようになりました。また、高機能換気、空調、ショーケースをAIで複合的に制御する「ガリレイエアテックシステム」をインドネシアのスーパーマーケットに導入いただき、実証実験がはじまっています。このシステムはベトナム、タイでの導入も決まっています。今後はこうしたシステムを広く普及させることで、アジアの国々に貢献できる事業展開を目指してまいります。

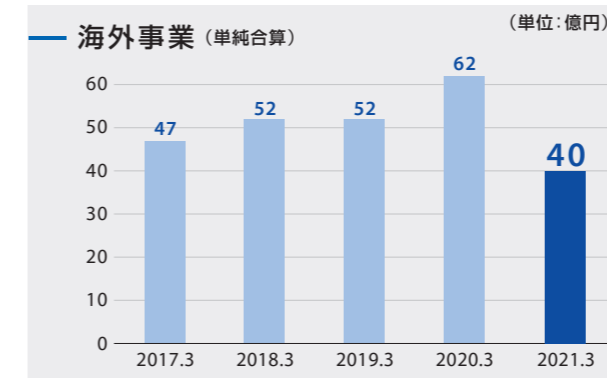
事業別の売上高推移

DIVISIONAL SALES

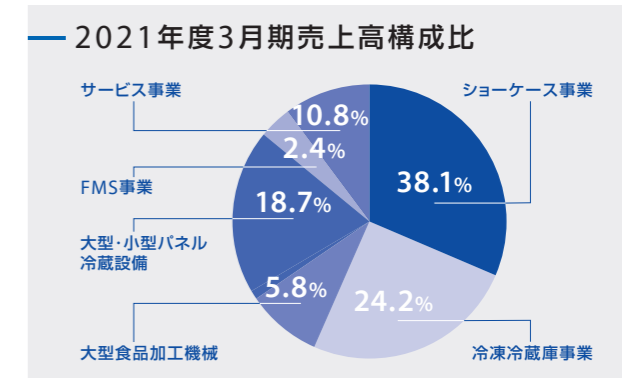


※大型・小型パネル冷蔵設備は、エンジニアリング事業とガリレイパネルユニットの売上高の合計です。

※大型食品加工機械の売上高は、タカハシガリレイ（サービスを除く）とショウケンガリレイの売上高の合計です。



※海外事業の売上高は、冷凍冷蔵庫事業及びショーケース事業の売上高に含まれます。



環境方針

ENVIRONMENT

環境にやさしい製品・システム・サービスを提供する「エコ・パートナー」を目指します。

環境基本理念

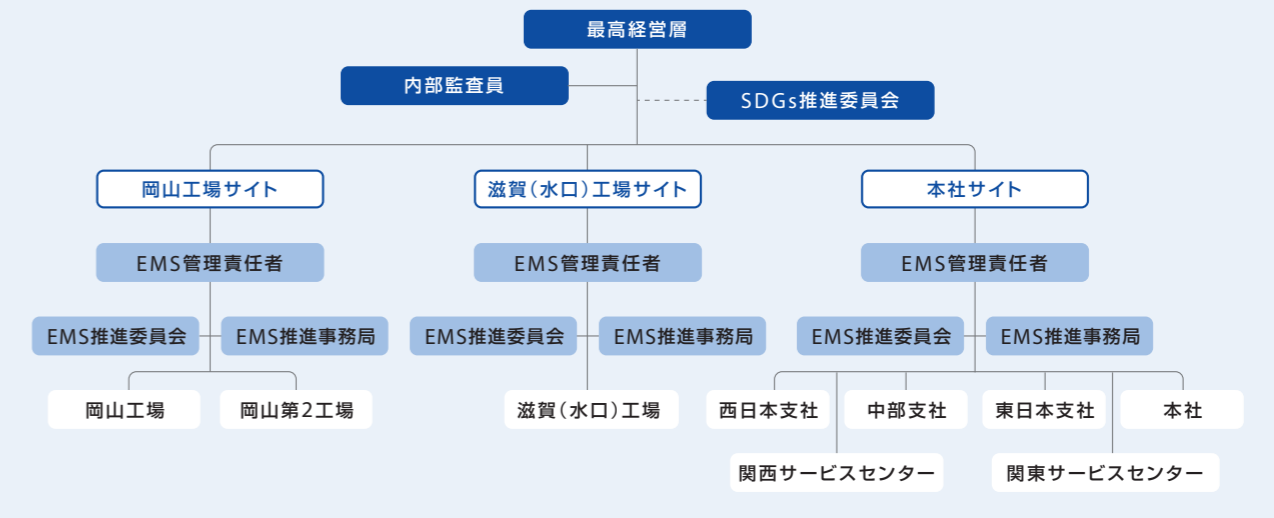
フクシマガリレイは、地球環境にやさしい事業活動を重要な経営課題のひとつとして認識し、環境への影響を配慮した取り組みを継続的かつ積極的に推進します。幸せ創造活動の一環として「ECO-tech」を軸に、環境にやさしい製品・システム・サービスを提供する「エコ・パートナー」を目指します。

環境基本方針

- 業務用冷凍冷蔵庫・ショーケース・プレハブ型冷蔵庫・その他の関連機器及びシステムの製造・販売・工事・メンテナンス・店舗システムを提供するにあたり、お客様の環境負荷を低減する製品及びサービスの提供・提案を行います。
- 事業活動が環境に与える影響を的確に把握し、汚染の予防に努めるとともに、環境管理システムの継続的改善を図ります。
- 法規制、条例、当社が所属する業界団体・地域社会の取り決めや自主的に受け入れを決めたその他の要求事項を遵守し、環境管理に努めます。
- 事業活動によって生じる環境影響のうち、下記に示す項目を重点テーマとして改善に取り組みます。
 - 環境に配慮した製品・システムの積極的な販売
 - フロンが環境に与える影響の低減
 - 廃棄物の排出量削減
 - エネルギー使用量削減
 - 素材・消耗材の使用量削減
- 環境目的・目標の設定を行い、実行計画を作成し、実施します。またこれらを定期的に見直し、必要に応じて改訂を行います。
- 環境管理システムの文書化を行い、この内容にそって運用し環境管理システムの維持管理を行っていきます。
- 全従業員に環境基本方針の内容を周知徹底させるとともに、教育によって環境保護の重要性への意識向上に努めます。また、グループ会社の納入・仕入・協力会社等にも当社の環境基本方針及び取り組みの周知を図り、理解と協力を求めます。

EMS推進体制

EMS推進委員会を中心に、環境目標の策定実績の把握を行い、さまざまな活動を推進しています。



環境監査

EMSが有効に機能しているかを確認するため、内部監査を年1回、外部認証機関による外部審査を年1回実施しています。内部監査員は、内部監査員養成セミナーを受講し、能力が認められた登録者のなかから選任。現在の登録者は56名となっています。

推進委員会

各サイトには、EMS管理責任者の下にEMS推進委員会が設けられており、定期的な会合・目標の策定・進捗と見直しなど、さまざまな情報交換が行われています。人数は2020年度実績で、本社サイトで32人、滋賀(水口)工場サイトは21人、岡山工場サイトは21人で運営、2021年度は本社サイトは33人、滋賀(水口)工場サイトは20人、岡山工場サイトは18人で運営していきます。

環境教育

年間教育計画表をもとに年1回、全従業員(一般社員・パート・派遣社員・請負業者)に向けた環境教育を実施しています。当社にとって最も関わりの深い環境活動であるフロン回収作業については、独自の認定基準を設け、認定登録者による回収作業を徹底。フロン回収技術者には、毎年緊急時の対応訓練を実施するなど、能力の強化を図っています。

The Galileiシリーズタテ型業務用冷凍庫W1200タイプが2020年度優秀省エネ機器・システム表彰において「日本機械工業連合会会長賞」を受賞いたしました。

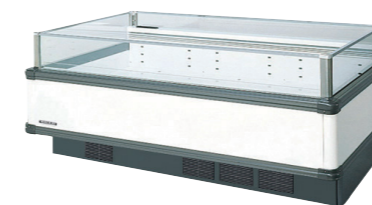


The Galileiシリーズ
タテ型業務用冷凍庫



- 受賞部門
令和2年度優秀省エネ機器・システム表彰 日本機械工業連合会会長賞
- 受賞製品
The Galileiシリーズタテ型業務用冷凍庫W1200タイプ
- 製品特徴
インバータDCC方式
DCC (Dual Comp. Control) 方式(省エネ性と冷却性能を両立させた当社独自の冷却技術)をさらに進化させ、メイン側にインバータ圧縮機を採用することで省エネ性能をさらに向上させます。
冷媒封入量の削減
前モデルであるARD-124FMD(2012年生産)と比較して、R134aの年間封入量を17%削減しました。CO₂換算で1台あたり約90kg-CO₂/年となり、地球温暖化防止に貢献しています。

アイランドショーケース スーパーワイドレンジタイプが2020年度『省エネ大賞』を受賞いたしました。新冷媒を採用し、脱炭素社会の実現に貢献します。



アイランドショーケース
スーパーワイドレンジタイプ



- 受賞部門
2020年度省エネ大賞(製品・ビジネスモデル部門) 省エネルギーセンター会長賞
- 受賞製品
アイランドショーケース単相100V仕様幅1800mm スーパーワイドレンジタイプ
- 製品特徴
スーパーワイドレンジタイプ
使用温度帯-25℃~+15℃でアイスクリーム・冷凍食品から冷蔵温度帯まで対応可能。
環境保全
地球温暖化係数(GWP=Global Warming Potential)の低い冷媒R448A(GWP:1387)を採用により、GWP値は約65%削減。冷凍機内蔵型ショーケースで冷媒R448A採用は当社初。

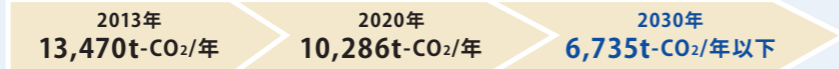
環境実績

ENVIRONMENT

環境アクション2030『CO₂ 排出量削減』



グループ全体で2030年までにCO₂排出量50%削減(2013年度比)を目指します。



※推定数値

●滋賀(水口)工場、岡山工場に太陽光発電設備を導入

当社は、「Dramatic Future 2050」を策定し、温室効果ガスの排出量実質ゼロに挑戦します。まずは、2030年までの環境アクションとして、自社のCO₂排出量削減に取り組みます。2022年1月稼働開始に向けて、滋賀(水口)工場、岡山工場に自家消費型太陽光発電設備の導入を進めています。また、11月に経済産業省から事業適応計画(エネルギー利用環境負荷低減事業適応)に認定されました。

滋賀(水口)工場

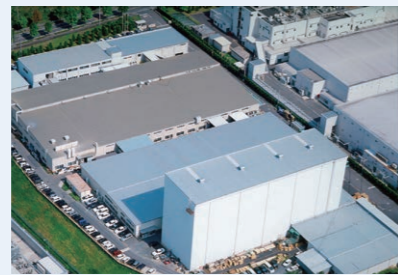
効果:年間CO₂排出量384tの削減
(2020年度比19.2%減)



滋賀(水口)工場

岡山工場

効果:年間CO₂排出量448tの削減
(2020年度比25%減)



岡山第一工場



岡山第二工場

【環境保全の目標・実績評価】本社・東日本支社・中部支社・西日本支社

【目標達成率】◎=100% ○=80%以上 △=80%未満

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2020年度実績	評価
環境負荷を低減する 製品・システム・サービスの提供	ECO-techを軸として、環境・安全・安心の製品・システム・サービスを提供し、エンドユーザーの環境負荷低減に寄与する	製品の拡販(目標:販売予算 総台数)	実施率 116%	◎
		長持ちビジネスの推進・提案	実施率 114%	◎
		省エネシステムの開発・提供	実施率 109%	◎
		安全・安心契約、システムの開発・提供(MILDE、HACCPマスター、Bemsの提案)	実施率 121%	◎
		上記項目の販促ツールの作成・情報提供	実施率 101%	◎
環境影響低減	サービス時・機器廃棄時の冷媒(フロンガス)回収の徹底(委託業者含む)	冷媒回収量・破壊量の記録の徹底	実施率 100%	◎
		ガス漏れ件数を調査し、前年度の実績によって目標を設定する	実施率 100%	◎
	電気エネルギーの使用量を前年より削減する	月4回のノー残業dayの徹底 無駄な電力の削減	実施率 101% 実施率 96%	◎ ○
環境教育、広報活動の推進	環境教育や啓発活動により従業員の環境マインドの向上を図る	近隣清掃、部会又は業務改善ミーティングの実施	実施率 99%	○
		教育訓練の実施	実施率 95%	○
		社員・部員の業務改善の施策	実施率 108%	◎
		健康経営に向けた施策	実施率 100%	◎
		感染症防止の施策	実施率 98%	○
		統合報告書	実施率 100%	◎
		オフィシャルサイトへの環境情報公開	実施率 100%	◎
法の遵守	環境関連法規制の遵守徹底(環境法、条例、業界の取り決めの遵守)	環境関連法規制の情報開示	実施率 100%	◎
		3か月に一度のフィルター清掃、簡易点検	実施率 99%	○
		適合性のチェックの徹底	実施率 100%	◎

■ 滋賀(水口)工場

モデルチェンジによる
CO₂ 排出量の削減

アイランドショーケース
スーパーワイドレンジタイプ
2020年度
省エネ大賞受賞

主要製品のモデルチェンジにより、新旧製品のCO₂排出量を67.5%削減し、目標を大きく達成しました。低GWP冷媒(R448A,R463A-J)採用機器を多数市場導入し、コンビニエンスストアやスーパーマーケットでは自然冷媒(R744)採用店舗が増加しました。また、内蔵ケースの冷媒転換を進め、ME/MG/IM/MRNシリーズにR448Aを採用しました。

■ 岡山工場

横型冷凍冷蔵庫超薄型
従来モデル比
27.1%~41.0%
省エネ化GWP値
60%削減

縦型冷凍冷蔵庫、
優秀省エネ機器・システム、
日本機械工業連合会
会長賞受賞

横型業務用冷凍冷蔵庫超薄型タイプをモデルチェンジし、従来より27.1~41.0%の省エネ化を達成、冷媒はGWP値の高いR404AからR134aへの切り替えを推進し、加重平均でGWP値を60%削減しました。また、縦型業務用冷凍冷蔵庫では、デュアルコンプレッサー制御式縦型冷凍庫が令和2年度優秀省エネ機器・システム表彰機器にて日本機械工業連合会会長賞を受賞しました。

【環境保全の目標・実績評価】滋賀(水口)工場

【目標達成率】◎=100% ○=80%以上 △=80%未満

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2020年度実績	評価
地球温暖化防止 (CO ₂ 排出量の削減)	製品の省電力化により省エネな製品の開発、新規開発製品・改良品により開発段階における新旧製品・部品に対してCO ₂ 換算を行い、改良・改善によるCO ₂ 排出量削減する。	新規開発・部品図作成段階・性能段階においてCO ₂ 換算し、CO ₂ 排出量2019年度比10%削減を目標とします。また、性能試験に用いる試験棟の電力使用量についても、2019年度比2%削減する。	内蔵ケース冷媒転換R448A採用化 ・CO ₂ 排出量換算2019年度比 67.5%減 (換算量19.3 t-CO ₂ 減)	◎
		温室効果ガスの排出量を2019年度比2.0%削減する	2019年度比 2.6%減	◎
	温室効果ガスの排出量を削減する	工場の時間あたり付加価値を2019年度比105%にする	時間あたり製造仕切 2019年度比5.0%アップ 時間あたり付加価値 2019年度比5.0%アップ	◎ ◎
		電力の使用量(2019年度比2.0%削減)	2019年度比 3.4%減	◎
		都市ガスの使用量(2019年度比2.0%削減)	2019年度比 4.0%減	◎
資源の有効活用	素材・消耗材の使用量を削減する	コピー用紙の使用量を2019年度比2.0%削減する	2019年度比 12.2%減	◎
産業廃棄物の削減と適正処置	産業廃棄物の排出量(昨対2.0%削減)		2019年度比 10.5%減	◎
		特別管理産業廃棄物の排出量(昨対2.0%削減)	2019年度比 320.3%増	×

【環境保全の目標・実績評価】岡山工場

【目標達成率】◎=100% ○=80%以上 △=80%未満

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2020年度実績	評価
環境負荷を低減する 製品の開発	新製品開発及びモデルチェンジ時に、旧製品よりも省エネかつ部品点数を削減して、環境負荷低減を図る	現行製品より10%以上の省エネ製品・10%以上の部品点数を削減した製品の開発	横型冷凍冷蔵庫超薄型 従来モデル比 27.1%~41.0% 省エネ化GWP値 60%削減 部品点数3.1%~10.7%削減	◎
フロンが与える 環境影響低減	冷媒徹底の回収 フロン排出量抑制	チェックシートによる回収記録の実施	実施率100%	◎
		フロン排出抑制法の遵守 フロン使用機器の管理・定期点検	実施率100%	◎
地球温暖化防止 (CO ₂ 排出量の削減)	温室効果ガスの排出量を削減する	温室効果ガスの排出量を2019年度比5%削減する	2019年度比 5.4%減	◎
		生産性向上により電力使用量を2019年度比5%削減	2019年度比 4.5%減	○
		LPG消費量を2019年度比5%削減	2019年度比 14.2%減	◎
資源の有効活用	素材・消耗材の使用量削減	コピー用紙の購入量を2019年度比3%削減する	2019年度比 15.4%減	◎
産業廃棄物の削減と適正処置	産業廃棄物の排出量削減	産業廃棄物の排出量を2019年度比5%削減する	2019年度比 0.4%増	△

社会貢献

SOCIAL CONTRIBUTION

近隣地域に根ざした活動 地域社会とのつながり

ガリレイグループは、地域社会の一員として、全国各地に広がる事業所近隣地域の清掃を始めとする日々の社会貢献活動を行っています。また、地域社会とのつながりを大切にさまざまな取り組みを推進し、社会と暮らしの活性化に寄与しています。

SOCIAL CONTRIBUTION

1 社会貢献活動「ガリレイ1%クラブ」

継続的な社会貢献活動にガリレイグループ全員で取り組む「ガリレイ1%クラブ」を発足

当社は、これまで近隣の子ども食堂・児童養護施設等への製品の寄贈や、テストキッチンを活用した食育セミナーの実施、災害時の復旧活動とそれに貢献できる製品の支援、工場や本社での献血活動の支援など、幅広く社会貢献活動に取り組んでまいりました。

今後も継続的に社会貢献活動を行っていくために、税引き前利益の約1%を社会貢献活動のために活用する「ガリレイ1%クラブ」を発足しました。グループ全社員が積極的にボランティア活動に関わる「社員参加型」の社会貢献活動です。活動内容は広く社員から応募を募り、社員が自主的に参加できるような活動を行います。



SOCIAL CONTRIBUTION

2 キッズニアパビリオン出展



“冷える仕組み”を学び、機械の修理・点検を実体験 子どもと保護者で深める「食」への興味関心

子どもの職業・社会体験施設「キッズニア甲子園」(兵庫県西宮市)に2015年から「冷蔵サポートセンター」のパビリオンを出展しています。スーパーマーケットやコンビニエンスストアに並ぶショーケースの“冷える仕組み”を学び、普段口にする食の安全・安心がどのように守られているのかを、修理・点検の仕方や管理モニターの確認作業を通して体験できます。訪れた子どもとその保護者に、緑の下の力持ちとして社会に役立っているフクシマガリレイの製品を通じて、食への興味関心、仕事の大切さを伝えています。

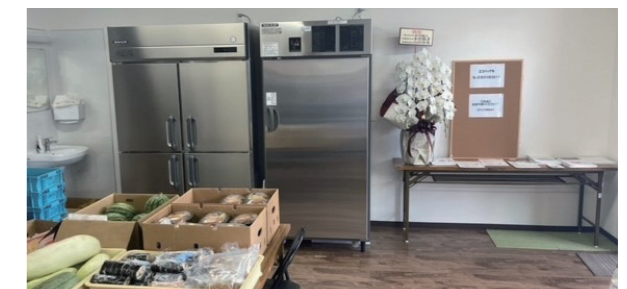
SOCIAL CONTRIBUTION

3 製品の寄贈について

ガリレイグループらしい「食」や「いのち」 に関わる社会貢献活動に取り組んでいます

2019年に大阪府内の子ども食堂52カ所、滋賀県内の子ども食堂1カ所に冷蔵庫を寄贈しており、2020年には医療従事者向けに医療施設5カ所、大阪府の子ども食堂2カ所、岡山のコミュニティフリッジ1カ所に冷蔵庫を寄贈しました。2021年は上半期で17台、全国の子どもの食堂やフードバンクへ冷蔵庫を寄贈しています。

引き続き、ガリレイグループらしい「食」や「いのち」に関わる社会貢献活動のアイデアをグループ全社から募集し、積極的に取り組んでいきます。



SOCIAL CONTRIBUTION

4 地域のフードバンク活動に協力

岡山県岡山市のコミュニティフリッジに 冷蔵庫を寄贈しました

日本初のコミュニティフリッジである「北長瀬コミュニティフリッジ(岡山県岡山市)」(運営:一般社団法人北長瀬エリアマネジメント)に、業務用冷蔵庫2台(GRN-124FMとMSS-090GHWSR)を寄贈しました。コミュニティフリッジとは、公共スペースに設置され、企業や個人が寄付した食品を24時間いつでも無料で受け取れる、いわば「みんなの冷蔵庫」です。コロナ禍などで困窮した子育て世帯や学生などを支援するというフードバンク活動に賛同し、今回冷蔵庫の寄贈という形で参加しました。



POINT

津波や河川氾濫など緊急時の「避難場所」となる本社ビル

本社ビルの周辺地域は、大規模地震が発生した際の、津波や河川氾濫による浸水被害の可能性が高いエリアです。万が一の場合に備え、地上8階建ての社屋は、災害時に近隣住民の方々へ一時開放する「緊急避難場所」として大阪市から認定を受けています。屋上に非常用発電機を設置しており、緊急時・停電時には8階の食堂を稼働させ、避難された住民の方々に必要な食糧などを供給することが可能です。

人材の確保・育成

HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT

健康経営の推進

企業理念である「社員の幸せ」の実現には、社員が心身ともに健康で幸せであり続けることが必要不可欠だと考えています。そのため、2020年「健康宣言」を行い、従業員の健康の維持・増進を積極的に支援していくことを経営方針として明確化しました。

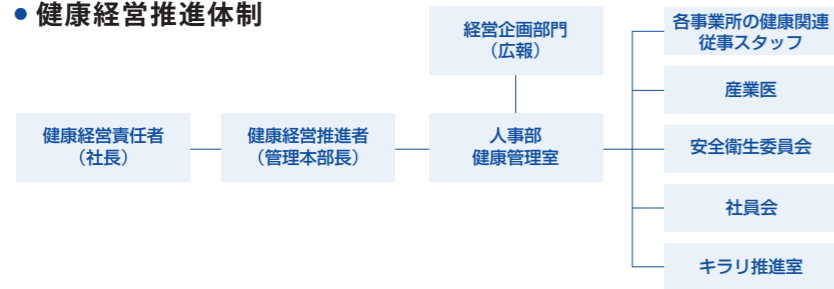
●健康宣言

わたしたちは、「幸せ創造企業」を目指し、心と体の健康増進に取り組み、明るく元気な職場作りを推進するとともに、「フードビジネス」を通じて生活者の健康増進を応援することを宣言します。

●健康経営方針

1. 社員自身が自律的に健康の保持・増進に取り組むことを積極的に支援します。
2. 疾病の早期発見と予防に努め、サポートの充実を図ります。
3. 仕事と生活の調和を実現し、育児や介護、病気等状況に応じて働くことのできる多様な働き方を推進します。

●健康経営推進体制



●取り組みについて

身体の健康保持・増進	法定項目の健康診断に加えて、がん検診を実施し、生活習慣病を含む疾病の予防、早期発見の充実に努めています。また、再検査・精密検査・要治療者に対する二次健診や特定保健指導を積極的に受診勧奨しております。
心の健康保持・増進	年1回受検率を100%を目標に全社でストレスチェックを実施し、セルフケア機会の確保を図っています。
ワークライフバランスの推進	ノー残業デーの実施、在宅勤務の活用、インターバル制度の導入により長時間労働の抑制に努めています。また年初に計画的に有給休暇を取得するよう計画させることにより取得を促進しています。
喫煙対策・禁煙支援	毎月22日は「禁煙の日」として終日禁煙、2021年4月からは就業時間内の禁煙を実施しています。また喫煙者に対しては禁煙を支援するため禁煙外来の費用を一部補助、毎年5月の世界禁煙デーにあわせて情報提供するなど受動喫煙被害の防止と禁煙による健康増進に取り組んでいます。

健康経営優良法人に認定

経済産業省が日本健康会議と共同で、優良な健康経営の施策を実施している大規模法人を認定する制度「健康経営優良法人2021(大規模優良法人)」に初めて認定されました。



多様性に関する取り組み

当社では、持続可能な事業・組織作りには、経営層・中核人材の多様化が不可欠であると考えております。

多様性を考慮した社外取締役の選任に取り組む一方、中核人材は社内育成が必要な層であるとの認識のもと、多様な人材を採用し、社内環境整備、風土醸成により継続を支援し、積極的な登用を行ってまいります。

※人材の多様性に関する各目標・実績はフクシマガリレイ単体を対象としています

●女性の管理職への登用

当社では女性の活躍推進について、「採用」「定着」「活躍」の観点から目標を掲げており、目標及び実績は次の通りです。

	実績(2021年4月)	目標(2022年3月)
新卒採用総合職男女比	23.8%	50%
新卒総合職女性3年後定着率	80%	90%
管理職人数	6名	10名

管理職候補となる総合職の主査・主任クラスは2021年4月時点18名(2015年4名より14名増)となりました。また、2016年8月より職種転換制度を導入し、2020年までに16名が事務職から総合職・地域限定総合職に職種転換しております。

●外国人の管理職への登用

現在、外国籍の社員は、子会社への出向者も含め16名が在籍しており、うち1名が海外子会社の管理職です。一般社員につきましても、母国の言語・知識を活かした海外事業部門での就業のみならず、各人の特性を活かし、国内営業・サービス・技術・開発・管理等、幅広い部門で活躍しております。

●中途採用者の管理職への登用

当社はポテンシャルを重視した若年層の採用、スキル・経験を重視した中堅層の採用の両面から、積極的に中途採用に取り組んでおります。結果、当社の管理職に占める中途採用者の割合は、約50%となっており、多様な職歴・バックグラウンドを持つ人材が活躍しております。

●多様性の確保に向けた人材育成方針、社内環境整備方針、その状況

柔軟な働き方の導入、業務時間を適正にするための改善ミーティングの実施、組織の多様化を推進する各種研修および全社的な健康経営の取り組みにより、多様な人材が能力を最大限に発揮できる環境づくりを推進しております。

現在、実業団テニス最高峰の日本リーグに所属！ 着実な成果とステップアップで女子テニス界の発展に貢献

2017年4月に発足した実業団女子テニス部は、実業団最高峰の日本リーグに所属しております。

前年度は新型コロナウイルスの影響により、日本リーグが中止になってしまいました。2021年度は新たに2名加入、所属部員が7名体制になりました。今年度は目標の決勝トーナメント進出できるように努力していきます。

今後も女子テニス界の発展や環境改善、部員のキャリアデザイン構築や働き方改革に貢献する取り組みとして活動を継続していきます。



コーポレート・ガバナンス

CORPORATE GOVERNANCE

ガリレイグループは、経営の透明性の観点から公正な企業活動を促進し、社会からの信頼に立脚した持続的な成長及び中長期的な企業価値の向上を目指し、コーポレート・ガバナンスの体制充実に取り組んでいきます。

当社は監査等委員会設置会社であり、会社経営、企業会計、業界知識、技術開発といった知見を備えた監査等委員4名（うち社外取締役3名）を選任しております。監査等委員会による監査体制は、常勤の監査等委員を経営監視機能として十分に機能しており、当社のガバナンス上最適であると判断しております。

2021年の主な取り組み

株主の権利・平等性の確保	機関投資家向け議決権電子行使プラットフォーム導入（2022年6月総会から予定） 開示書類の必要情報の英文開示
株主以外のステークホルダーとの適切な協働	中核人材の多様性の確保への現状と目標を開示
適切な情報開示と透明性の確保	サステナビリティへの取り組みの開示 2021年6月 「Dramatic Future 2050」策定 取締役の個人別の報酬等に係る決定方針を策定
取締役会の責務	独立社外役員の選任（取締役会11名中3名） 取締役スキルマトリックスの検討（2022年6月総会招集通知にて開示予定） 社外取締役の独立性基準を策定 グループ全体の内部統制、リスク管理体制の強化 コンプライアンスガイドラインの改訂
株主との対話	ディスクロージャーポリシーの策定

コーポレート・ガバナンス強化の歩み

2008年	リスク管理委員会の設置
2015年	社外取締役の選任
2018年	コーポレートガバナンス・コード改訂に伴う見直し
	取締役会実効性評価の開始
	指名諮問委員会・報酬諮問委員会の設置
2020年	政策保有株式の保有基準の明確化・定期的な見直し
	取締役会・経営会議討議基準の見直し
	監査等委員会設置会社へ移行 コンプライアンス委員会の設置

コーポレート・ガバナンスの充実に向けて「監査等委員会設置会社」に移行

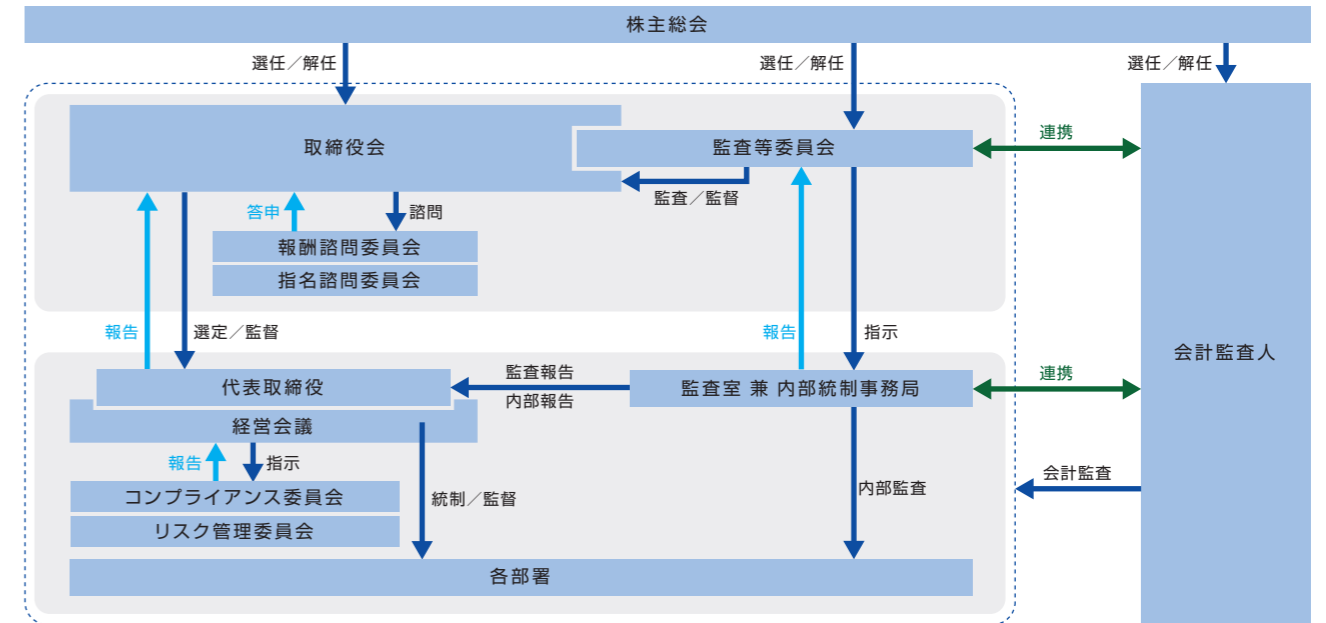
当社は、2020年6月29日開催の第69期定時株主総会の決議により「監査等委員会設置会社」へ移行しました。これにより、役員体制をスリム化するとともに、取締役会における重要な業務執行の決定の相当部分を取締役委任することで、迅速かつ機動的な意思決定を実現し、経営戦略等の議論の一層の充実と監督機能を強化してまいります。

当社のコーポレート・ガバナンスに関する考え方、コーポレートガバナンス・コードに関する取り組みの方針及び状況の詳細については、「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」をご覧ください。

IRニュース
<https://www.galilei.co.jp/ir/news/>



コーポレート・ガバナンス体制



I 取締役会

毎月1回取締役会を開催し、重要事項の決定ならびに審議・意見の交換を行い、各取締役は連携して業務執行の状況を監督します。取締役会は監査等委員4名（社外取締役3名）を含む取締役11名で構成しており、経営の意思決定を行っております。議長は、代表取締役社長 福島 裕が務めてお

ります。その他のメンバーは、取締役 福島 亮、福島 豪、片山 充、長尾健二、水谷浩三、日野達雄、取締役監査等委員 竹内博史、堀之内健士、藤川隆夫、吉年慶一であります。

II 監査等委員会

当社は監査等委員会設置会社であり、監査等委員会は毎月1回開催し、取締役会の議案に関する審議や重要な会議情報など監査等委員間で意見の交換等を行っております。議長は、社外取締役 竹内博史が務めております。

その他のメンバーは、常勤監査等委員 堀之内健士、監査等委員 藤川隆夫、吉年慶一であります。

III 指名諮問委員会・報酬諮問委員会

当社は、取締役会の諮問機関として、指名諮問委員会および報酬諮問委員会を設置しております。

指名諮問委員会は、取締役会にて委嘱された社外取締役 竹内博史、藤川隆夫、吉年慶一の計3名で構成されており、委員長は藤川隆夫が務めております。委員会は1年に1回以上開催しております。指名諮問委員会は、能力や適性等を判断して候補者を審議し、取締役会は委員会の答申を受けて、取締役候補者および執行役員を決定しております。

報酬諮問委員会は、取締役会にて委嘱された代表取締役社長 福島 裕、社外取締役 竹内博史、吉年慶一の計3名で構成されており、委員長は吉年慶一が務めております。委員会は1年に1回以上開催しております。報酬諮問委員会は、報酬制度や報酬総額等を審議し、取締役会は委員会の答申を受けて、報酬制度や報酬総額、業績連動型報酬の割合および現金報酬と自社株報酬との割合を決定しております。

IV 経営会議

当社は、迅速な意思決定が行えるよう取締役会のメンバー及び業務執行責任者による経営会議を設けております。この会議には、業務執行取締役、常勤監査等委員、執行役員、統括部門長が出席し、企業運営について十分な議論を行うとともに、社外取締役も出席し、意見を述べることができ

るようになっております。議長は、代表取締役社長 福島 裕が務めております。その他のメンバーは、取締役 福島 亮、福島 豪、片山 充、長尾健二、水谷浩三、日野達雄、常勤監査等委員 竹内博史、堀之内健士および執行役員6名ならびに統括部門長8名であります。

V 監査室

当社は、内部監査体制充実のため、業務監査を行っております。

MILAB [ミラボ]

MILABフーズコンサルタント室の活動についてご紹介します。

【品質評価】

MILABには食材のおいしさ・安全性・栄養価の分析などを科学的に検証・評価する、MILAB食品研究室があります。また、社員が参加する官能評価などにより、お客様の商品開発をサポートしています。

●嗜好型官能評価

ガリレイグループ社員約100名が参加し、食べ比べを実施。味や香り・食感などの好みを調査しました。

●物性の測定

水分計やレオメーター等の分析機器を使用し、それぞれの食品に含まれる水分量や硬さなどを検証。

●味覚分析

味認識装置や糖度計などを使用し、数値で分析。

【凍結・解凍試験】

全国各地にあるF'S DESIGN COURT(テストキッチン・ショールーム)にて、凍結・解凍試験を行い、お客様に効果を実感していただいた上で機器を導入いただいています。

遠方のお客様の場合は食材をお送りいただき、後日試験報告書や凍結した食材を送付しご確認いただいています。

●プラスチックによる凍結試験

新たな販路を求める飲食店の要望に合わせ、惣菜等の凍結試験を行いました。

●ステップ運転機能付解凍庫による冷凍鶏肉の解凍試験

唐揚げ専門店と一緒に冷凍鶏肉の解凍試験を行いました。試験の結果、歩留まりが良くなり、品質が安定したと評価いただきました。



ツカエルミラボキッチン

食の新しいスタイルを開拓する飲食店を、全力でサポートします。

コロナ禍での中食需要の拡大とデリバリープラットフォームの普及により、飲食店の新たなモデルとして、フードデリバリーを活用したゴーストレストランやシェアキッチンスペースが増加しております。関西圏にてフードデリバリーサービスやテイクアウト、ネット販売などを新たに始める飲食店のスタートをサポートするため、ガリレイグループ本社ビルでシェアキッチンを開始しました。



オープンイノベーションの取り組み

人と人、人と技術、技術と技術をつなぐ"JOIN"をコンセプトに、「食関連分野オープンイノベーション・チャレンジピッチ」に、登壇の依頼を受け参加しました。

自社のオープンイノベーション戦略や求めるパートナー像、並びに具体的な技術ニーズや共同開発ニーズなどについて情報発信する機会を設け、オープンイノベーション推進者同士がリアルにネットワークングすることを通じて、企業間、産学官連携の創出を目指す取り組みです。他社とともに世間のニーズを解決する、新たな価値(共創価値)を創造するための提携などを進めていきます。その他にも、「オープンイノベーション・チャレンジピッチin ちゅうごく」や、「第3回大阪テックブランングランプリ」など、さまざまなオープンイノベーション促進イベントに参加しています。

POINT



さまざまな食の関係者と技術や情報の交流を目的とした会員制オープンコミュニティ

MILABの来場者数は、2019年度約2000名、2020年度約2000名とコロナ禍でも感染拡大防止に留意しながら多くの方にご見学、ご利用いただきました。また、「MILAB CLUB」では、各種のイベントやコンテンツがオンライン+リアルで展開され、昨今の事情を鑑みた飲食店の運営・経営関連や有名チェーンのトップセミナーなど、実践的なセミナーを実施しております。今後もさらに充実したコミュニティを目指します。

財務ハイライト

